

令和4年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会
第2回幹事会 会議録

■ 日 時 令和4年12月14日(水) 10:00~12:00

■ 場 所 四日市商工会議所 3F 大会議室(オンライン併用)

■ 出席者

(有識者)

村山顕人氏、松本幸正氏

(交通関係者)

松原拓也氏(代理)、神谷昭彦氏、小瀬古恵則氏(随員)、伊藤眞郷氏(代理)、
中島嘉浩氏

(商工関係者・大規模権利者・事業展開企業)

速水正明氏、水谷貴宣氏(代理)、鈴木主計氏、北畠肇氏、今井健太氏(随員)、
吉田健氏、安達勝也氏、山本龍太郎氏(随員)、荻村洋一氏、白江真二氏(随員)、
渡部雄介氏(随員)

(行政)

家崎喜登氏(代理)、藤井爽太氏(随員)、左橋直也氏、館英次氏

(事業展開企業)

渡邊真司氏、佐藤智裕(随員)、飯伏勝也(随員)、森川千尋(随員)、
岩崎めぐみ(随員)、福田泰之氏

(オブザーバー)

国土交通省都市局街路交通施設課街路交通施設安全対策官 太田裕之氏

国土交通省中部地方整備局建政部都市整備課係長 林哲男氏(代理)

国土交通省中部運輸局交通政策部交通企画課長 勝山祐樹氏

国土交通省中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官 前葉光司氏

■ 次 第

1. 開会

2. 議題

2-1. 議題 第1号 今年度のスケジュールについての確認

2-2. 議題 第2号 実行計画の進捗について

2-3. 議題 第3号 ワーキンググループ(WG)の実施報告

2-4. 議題 第4号 賑わい創出社会実験に係る報告

2-5. 議題 第5号 スマート・インフラに係る検討について

2-6. 議題 第6号 3D都市モデルに係る検討について

3. 閉会

■ 内 容

【1. 開会】

<進行>

定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日はご多用にもかかわらず、ご出席いただきありがとうございます。

ただいまから四日市スマートリージョン・コア推進協議会の令和4年度第2回幹事会を開会いたします。本日の会議を進行させていただきます、四日市市政策推進部政策推進監の中川と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、お手元の資料をご確認ください。全部で7種類の資料と3種類の別添資料をお配りしております。過不足ありましたら挙手にてお知らせください。

それでは冒頭挨拶として館副市長より一言お願いいたします。

<館副市長>

皆さん、おはようございます。お忙しいところご参加いただきましてありがとうございます。本日はWEB併用の会議とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。本日はスマートリージョン・コア推進協議会の幹事会ということで、今年度2回目、通算5回目ということになります。前回8月の幹事会ではモビリティワーキンググループおよびデータプラットフォームワーキンググループの実施状況の報告、そして、9月22日から10月16日まで約1ヶ月開催いたしました賑わいの社会実験の計画概要などをご報告させていただきましたと思います。

本日も、その後のワーキンググループの活動状況の報告に加えまして、社会実験の実施報告などもさせていただきます。また、スマートリージョン・コア実行計画の進捗につきましてのご報告とともに、いよいよ具体的に検討に入っております、カメラ先進機器といったスマート・インフラの検討状況についてもご報告をさせていただく予定となっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の取り組みとしまして、実行計画のうち市が進めておりますデータプラットフォームの構築、それから3D都市モデルの構築、それから今駅の西の方で中央通りの先行工事を進めておりますが、その中でシー・ティー・ワイ様のローカル5Gの整備も今年度整備される予定でございます。さらにご承知の通り、四日市の新しいシンボルとなるその円形デッキを含めた辺りのデザイン、中央通り、それから駅周辺のデザインも大体固まってまいりましたので、いよいよ市民の皆様方のこの中央通り再編に対する期待もどんどん高まってきているという状況になっております。先日の日曜日にはスマートシティ、それからDXに関するシンポジウムを開催させていただきました。そこでも市民の皆様さん、あるいは事業者の皆様方からいろいろご意見を頂戴しました。本日もスマートシティの実現に向けまして、忌憚の無い意見交換をぜひしていただきたいということでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

い致します。簡単ではありますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

<進行>

本日は議題の前に1点、富士通 Japan 株式会社様の協議会加入についてご報告いたします。令和4年11月に富士通 Japan 株式会社三重支店長 渡邊真司様から提出された本協議会への参画申込書を受け、本協議会として確認いたしました。富士通 Japan 株式会社様の参画申込書については別添3をご確認ください。ここで富士通 Japan 株式会社様からご挨拶をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<富士通 Japan>

今ご紹介に預かりました、富士通 Japan の渡邊でございます。この度この本協議会に参画をさせていただくことになりました。今後ともよろしくお願いいたします。私どもは四日市市様のデータプラットフォームプロジェクトの担当ベンダーとしてご採用いただきまして、今正に案件の皆様と共にプロジェクトを進めているところでございます。今回のこの協議会への参画を機に、関連するワーキンググループにも参画させていただいて、四日市市様、そして地域住民の皆様、そして地元の企業の皆様に役立つような基盤構築にしっかり取り組んでまいりたいと思っております。地域活性化に向け微力ながら努力して参りたいと思っておりますので、これからぜひよろしくお願いいたします。

【2-1. 議題 第1号 今後のスケジュールについての確認】

<進行>

さて、初めに今後のスケジュールについて確認致します。続いて、実行計画の進捗報告やワーキンググループの実施報告を頂戴した後、9月下旬より10月上旬まで開催いたしました賑わい創出社会実験の報告を行ないます。その後、スマート・インフラや3D都市モデルの検討状況について報告致しますので、御意見をいただければと思います。質問やご意見を頂戴する時間は議題毎に適宜設けさせていただきます。

それでは早速ですが、最初の議題を進めさせていただきます。ここからの進行は座長にお願いしたいと思います。村山先生、よろしくお願いいたします。

<村山座長>

はい。承知しました。それではまず議題第一号、今後のスケジュールについての確認です。前回8月19日の第1回幹事会からの状況報告と、今後の予定について詳細のご説明は、株式会社日建設計総合研究所様よりお願いいたします。

<株式会社日建設計総合研究所>

株式会社日建設計総合研究所から「今年度のスケジュールについての確認」について説明があった。(資料2)

<村山座長>

ご説明ありがとうございました。次の議題に移りたいと思います。

【議題 第2号 実行計画の進捗について】

<村山座長>

昨年度本協議会でもご議論いただきましたスマートリージョン・コア実行計画について、本年度末3月の第3回幹事会では策定後一年が経過するにあたり、進捗のご報告をいただく予定です。それに向けて、現時点での進捗も踏まえつつ今後の管理見直しの方法についてご検討いただきましたので、再び株式会社日建設計総合研究所様からご説明をお願いします。

<株式会社日建設計総合研究所>

株式会社日建設計総合研究所から「実行計画の進捗について」について説明があった。(資料3)

<村山座長>

ご報告ありがとうございます。実行計画の進捗管理の方法や、今年度の進捗について、ご意見やご質問がある方は挙手の上で発言をお願いいたします。

<村山座長>

ご報告ありがとうございます。一応進捗としては遅れなしということで理解を致しました。私から1点質問です。新たに実行計画に追加する項目の検討について、今4ついずれも市役所からの提案が出ていますが、今後例えば幹事会構成メンバーから何か新しいアイデアが出てきて実行計画に盛り込むということもあり得るのでしょうか？

<株式会社日建設計総合研究所>

私の方からご回答しますと、もちろんそれを是非進めていきたいと思っております。実行計画自体が、四日市市さんだけではなくて企業さんを含めた協議会全体で進めていくべきものですので、できれば民間企業さん、その他の団体の方からも、実行計画に書かれていること、書かれてないこと含めてぜひご提案いただきたいと思っております。後でご紹介しますが、国の補助事業などのメニューも多々ございますので、そういったものも使いつつぜひ様々なご提案をいただいて実行していくと共に、新たなメニューというのも付け加えていければなと思っております。

<村山座長>

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

<松本先生>

表中で継続検討という言葉と検討中という言葉がありますが、どう使い分けていますでしょうか。

<株式会社日建設計総合研究所>

検討中（現在進行形で検討している）、継続検討（まだそんなに進んでないが、将来に向けて継続的に検討）というところです。

<松本先生>

検討中というのは、まさに今が Doing、継続検討というのが、一般にいう検討なのですね。
はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか？

<進行>

事務局側から発言があります。

<村山座長>

はい、お願いします。

<事務局 市街地整備課>

資料 3 の 5 ページの一番下のスマート・インフラに★印(市が実施主体となる取り組み)と表記されておりますが、こちらの取り組みに関しては、シー・ティー・ワイ様の情報インフラ、情報通信設備の話を持ち上げている話を中心でございますので、★に対してシー・ティー・ワイ様の事業ということで実施が進んでいるということをご報告させていただきます。以上でございます。

<村山座長>

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか？次に進みたいと思います。

【議題 第2号 ワーキンググループ (WG) の実施報告】

<村山座長>

次の議題は、ワーキンググループの実施状況に関するご報告です。本協議会では、データプラットフォームワーキングとモビリティワーキングを設置し、それぞれのテーマに応じて参加企業からのアイデアを募ることや、実行計画に具体的な取り組みを記載することを目標にして、議論や整理を進めてまいりました。前回の幹事会以降に各ワーキングで実施された会議の内容を報告します。それぞれのワーキング代表企業様からご説明いただいたと思いますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、データプラットフォーム WG の代表であるシー・ティー・ワイ様よろしくお願いいたします。

<株式会社シー・ティー・ワイ>

株式会社シー・ティー・ワイから「ワーキンググループ (WG) 実施報告」について説明があった。(資料 4)

<村山座長>

ご報告ありがとうございました。新スキームの検討ですとか、ワークショップなどで新しい展開も見えてきて、とてもいいと思いました。

続きましてモビリティ WG の代表でありますマクニカ様からご説明お願いいたします。

<株式会社マクニカ>

株式会社マクニカから「ワーキンググループ (WG) 実施報告」について説明があった。(資料 4)

<村山座長>

ご報告ありがとうございました。ただいまご報告いただきました二つのWGの実施状況について、ご意見やご質問がある方は挙手の上ご発言いただけますでしょうか？

<進行>

館副市長より発言があります。

<館副市長>

館でございます。本当に両ワーキンググループの皆様方、ご検討ありがとうございます。だいぶ進めていただいているということで、まずお礼を私の方から申し上げます。データプラットフォームのワーキンググループの方ですが、1月にこういったワークショップ開催をされるということで非常にありがたいのと、この結果をまとめていただいて、ぜひそれを反映できたらという思いでおります。ぜひその様子もシー・ティー・ワイさんの方で情報発信していただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

それからモビリティの方はなんといつてもMaaSを市としては是非進めていきたいと思ひておりますし、私も以前、前橋市さんのMaaSというのがどういふものか少し詳しく勉強もさせていただきながら、バスタなど様々なハード整備をしていく中で、このMaaSが非常に重要になってくると思ひておりますので、ぜひご検討よろしくお願ひいたします。以上でございます。

<村山座長>

はい、どうもありがとうございます。他にいかがでしょうか？

【議題 第3号 スマート・インフラに係る検討報告】

<村山座長>

次の議題に移りたいと思ひます。続きまして賑わい創出社会実験に係る報告についてでございます。中央通りの一部エリアにおいて、9月22日木曜日から10月16日日曜日にかけて、四日市市主催の社会実験を開催いたしました。株式会社日建設計総合研究所様及び株式会社マクニカ様から賑わい創出社会実験の内容についてご説明をお願ひしたいと思ひます。

<株式会社日建設計総合研究所>

株式会社日建設計総合研究所から「社会実験におけるデータサーベイに係る報告」について説明があった。(資料5-1)

<株式会社マクニカ>

株式会社マクニカから「社会実験におけるモビリティに係る報告」について説明があった。(資料5-2)

<村山座長>

それでは賑わい創出社会実験の内容についてご意見、ご質問ある方は挙手の上ご発言いただけますでしょうか？

<村山座長>

私から 1 点よろしいでしょうか？モビリティの社会実験の方に関する質問なのですが社会実験の目的は、自動運転車を走らせるためのインフラのあり方を検討するという事だったと思います。情報システムに係わる気づきはいろいろ教えていただいたのですが、道路のインフラそのものについて何か気づきはありましたでしょうか？例えば乗降車する場所の問題や、走行車線の問題など、もしあれば教えてください。

<株式会社マクニカ>

はい。細かい話なのですが、今回の自動運転では LiDAR というセンサーを使って、自分の位置を認識するようなシステムをメインで活用しましたが、今ホテルができるなど、周りの風景が一ヶ月の中でも変わっていくような状況が時々ありました。そうすると自動運転で認識した自分の位置が少しずれて同じ車線でも若干右に寄ったり、左に寄ったりすることがございます。また、インフラという意味で、市役所さんの前に信号のない横断歩道が一つあり、そこはどうしても警備員を配置してトランシーバーでやり取りしていました。将来的には、信号のない横断歩道の交差点においてもセンサー等を利用して自動運転とインフラと協調して速度を落としたり停まったりそのまま進んだりできるシステムが必要だと感じた次第です。

<村山座長>

ありがとうございました。その信号のない横断歩道のところでは、例えば地面に何かセンサーを埋め込むということでしょうか。

<株式会社マクニカ>

そうですね。地面にセンサーを埋め込んだり、あとはスマートポールで、人がこれから渡ろうとするときや近づいてきているときなどに、自動運転の方に信号が送られると、速度を落としたり、停車できるのかなという認識を持っております。

<村山座長>

はい。わかりました。ありがとうございます。他にご質問等いかがでしょうか？

<松本先生>

自動運転の方で、今年度は様々な新しい取り組みが行われて、それぞれが検証されて有意義な実証実験だったと思っております。そのような中で課題も分かり、名古屋の方で行われた自動運転の例でいうと、例えば今の横断歩道の例では、実はインフラ側、まち側の方にセンサーを付けておいて、そこで監視させていることがあります。具体的には、あるショッピングセンターの駐車場で一般車の出入りが非常に多いところで自動運転を行った際、出入り口にカメラを据えて、監視をして、危険な状況になったらそれをアラートとして送るようなことをしていました。場合によっては、インフラ側で観測をしていくことも考えないといけないのかもしれないかもしれません。

ちなみに実証実験だったので、スマホでやっていました。

<マクニカ>

なるほど。それはやる価値がありますね。

<松本先生>

お客さんが待っているバス停で観測をしておいて、センターに送られた情報が自動運転の方に送られる、そんな仕組みをつくっていかないといけないと思うので、そのようなことも含めて進めてもらうといいかなと思っています。

<マクニカ>

ありがとうございます。そうですね。

<松本先生>

それから今年度、車内のモニターはとても良い、あるいは今後活かされる内容だと思っています。

おそらく街の中の移動手段というのは、目的が大きく2つに分かれると思っています。1つはいわゆる、駅間の移動手段。これはできるだけ早く、スムーズにすることを目指して是非頑張ってもらいたいと思います。

一方で賑わい創出、回遊のための移動手段はかなり方向性が異なり、そのような意味で今回はこの車内モニターで様々なエンターテイメントの情報が送られたと思います。四日市のまちをゆっくりと見てもらうためや、或いはこの時に街の中のイベントや歴史的な価値、インスタ映えのスポットなどを伝え、いわゆるルーフトップバスの自動運転版のように、移動の時間を楽しみながらまちの情報を仕入れるというのもあっていいなと思うのです。

だいぶ目指す方向が違ってくると思います。今回は後者の可能性を探られたと思ったので、楽しみながら移動できる、あるいは移動自体を楽しむための活用もぜひ探ってもらいたいと思いました。

<株式会社マクニカ>

はい、ありがとうございます。おっしゃる通りで、楽しい移動を目指したいと思っています。

表現が適切かわかりませんが、中央通りがテーマパークのような方向になっていくといいのかなと思います。そのテーマパークの色々な場所で行われる色々なことを、ひとまずはゆっくり走る自動運転に乗って、どこに何があるかを見ながらあそこへ行ってみよう、ここへ行ってみようと、知らなかったことを知り色々な人たちが色々なところに行けるような世界を作ることをイメージして、今年度はやらせていただいたという状況です。

<松本先生>

本当にそうですね。乗って、色々な場所を知り、ではこの後ここへ行こうとか、今度はこの手段で行こうとか、そのような情報が素早く入ってくるといいですね。また、次年度以降も楽しみにしています。

<村山座長>

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか？

私からもデータサーベイに関してお聞きしたいのですが、環境センサーはやはり真夏の暑熱環境のモニタリングで、これから非常に大事になってくるのではないかと思ったので

すが、今回社会実験の期間が秋になってしまっているのも、もしかするともっと暑い時に実施したほうがよかったのではないかと思いました。また、センサーの設置箇所が基本的に各エリアに1,2か所で、例えば同じパークエリアでも日陰のところと、どうしても日が当たってしまうところとではだいぶ環境が違うと思うので、その辺の比較もできると良かったのかなと思いますが、来年度に向けて環境センサーについて工夫できそうな点がもし他にあればお願いします。

<株式会社日建設計総合研究所>

はい、ありがとうございます。今言っていた通りでエリアごとや特性ごとにどのように計測結果が変わるのかということ意識して、今回配置をしました。例えば、中央分離帯のところは木陰が特徴的で、かつ地面が土だったので、他のエリアとは異なる特徴からそのような場所に設置しました。イベントエリアでは芝生の上に設置をしました。ここは特に日陰がある状況ではなく日向で、ストリートエリアのところは歩道上ですので、アスファルトの上というような少し環境が異なる場所を抽出して設置をして、結果的に差が出たということになります。環境によつての差は、仮説をもって実施して、その通りだったということが分かりました。

今後に向けては、継続をするにあたり計測機器の小型化や設置し易さが課題になると思っています。今回中央分離帯とイベントエリア、パークエリア、カルチャーチャレンジエリア、イベントエリアのところについては床置き型のセンサーを設置し、かなり小型化を目指し、このようなもの(3ページ目下の中央写真)を設置しておりました。ただ、これが将来的に街の中に置かれることはなかなか難しいと思っております。将来的にはスマートポールのような街路灯に取り付けることを想定して、この右下にあるように既存の街路灯に取り付ける方法も今回試してみました。それでも1mと3.5mの高さ(人の高さ、人が届かないようなところ)で、それぞれ若干差が出ていると分かってきました。設置性の高い方法を以て、且つ人の高さのレベルの温度が測れるところについては、今後より検討が必要と思っております。

<村山座長>

はい、どうもありがとうございました。今年各エリアに1ヶ所設置していますが、それぞれご説明いただいたように、土地被覆や陰の有無など、色々細かい環境が異なるので、少し報告のところに説明を入れていただけるといいと思いました。

<株式会社日建設計総合研究所>

はい、ありがとうございます。

<村山座長>

はい。他にいかがでしょうか？

<松本先生>

松本です。度々申し訳ないですが、よろしいですか？

<村山座長>

はい、お願いします。

<松本先生>

このスマートセンサーですが、いわゆる行政やアカデミック側から言うとはすごく興味深くて、そのデータの価値も分かるのですが、民間の方々からするとどういう価値があるのか分かりづらいということが今後の課題になると思います。今のところセンサーの精度や可能性ということで計られていると思いますが、並行して今後この活用を考えていかないといけないと思います。これがビジネスモデルに乗って行くというのが一番いいと思っておりますが、まだはっきりと見えてきてないということであれば例えばハッカソンとかデータソン、あるいはアイデアソン等を開催して、AI センサー、その他スマートセンサーで取れたデータを活用してどのようなビジネスモデルやアプリケーションを募集するアイデアソンやアイデアワークショップを開催してもいいのではないかと思います。日本中から、下手したら世界中からそういうのが好きな人たちが集まってくれて、四日市の知名度も上げながら、これらの活用、そしてビジネスモデルの創出なんかもできるので、ぜひそういうのをデータプラットフォームワーキングで開催いただくといいのではないかなという気がしました。以上でございます。

<株式会社日建設計総合研究所>

はい、ありがとうございます。今言っていたことをぜひやりたいと思っており、まさしく1月に行うワークショップの中で、データをどのように活用できるのか、自分たちならどのように活用するかといったアイデアを各企業さんからいただくようなワークショップを考えておりますので、それについて色々ご意見頂きながら深めていきたいと思っております。

<松本先生>

そうですね。ただ、閉じたところでやるより本当にアイデアソンやハッカソンに参加される方々って、幅広い考え、知識、技術をお持ちで、そこを無料で活用できるならそれを使わない手はないと思います。

鉄道会社やロンドンの交通局などでもハッカソンを開催していただきましたので、そういうものを開催すると面白いのではないのでしょうか？

<株式会社 日建設計総合研究所>

はい。ありがとうございます。参考にさせていただきます。

<村山座長>

はい、どうもありがとうございます。他にいかがでしょうか

【議題 第 5 号 スマート・インフラに係る検討について】

<村山座長>

次は中央通り再編の先行工事区間において、スマート・インフラの導入が控えている為、

具体的な発注に向けて四日市市による検討が進められています。庁内で検討している内容や状況について株式会社日建設計総合研究所様よりご説明お願いいたします。

<株式会社日建設計総合研究所>

株式会社日建設計総合研究所から「スマート・インフラに係る検討について」について説明があった。(資料6)

<村山座長>

ご説明ありがとうございます。それでは今ご説明がありました。スマート・インフラに係る検討について、ご意見やご質問がある方は挙手の上ご発言お願いします。いかがでしょうか？

【第6号 3D 都市モデルに係る検討について】

<村山座長>

次は議題としては最後になりますが、3D 都市モデルの検討が進められていますので、これについて再び日建設計総合研究所様よりご説明お願いいたします。

<株式会社日建設計総合研究所>

株式会社日建設計総合研究所から「3D 都市モデル検討に係る検討について」について説明があった。(資料7)

<村山座長>

はい。ありがとうございます。3D 都市モデルのユースケースの検討についてご意見やご質問ある方は、後程事務局宛にご連絡いただけますと幸いです。本日の議題は以上になりますが、ここでその他事務局から情報共有されたい事項があると聞いていますので、よろしくをお願いいたします。

<株式会社日建設計総合研究所>

冒頭にも申し上げましたが、実行計画の中身を具体的にプロジェクト化していきたいです。その意味では四日市、いわゆる行政が進める事業だけではなくて、ぜひ各企業さんからご提案を広くいただきたいと思っております。国土交通省さん含めた省庁、先ほどご紹介しましたが、デジタル庁のデジタル田園都市というのも昨年度から始まっております。そういった補助事業について省庁からご案内が来ていますので、今後、協議会を通じて皆様にも情報提供は積極的に行っていきたいと思っておりますので、ぜひ積極的にご提案をいただきたいと思っております。そういう事業は地方自治体さんと一緒に応募するというのが一般的でございまして、例えば四日市さんの部署のうち協働していきたい特定のものがあれば、事務局の側でその間を取り持つようなこともしていきたいと思っておりますので、ぜひ積極的なプロジェクト化に向けて頑張っていければと思っております。以上でございます。

<村山座長>

はい、ありがとうございます。それでは全体を通して、ご質問やご意見がありましたら、ご発言お願いしたいと思います。いかがでしょうか？ よろしいでしょうか。はい。

【3. 閉会】

<進行>

事務局でございます。では最後になりますが、全体を通して松本先生からコメントを頂けないでしょうか？

<松本先生>

はい。先ほどそれぞれで今後に対しての期待も述べた通り、一つずつ着実に進んでいるかと思っておりますので、並行して可能性から活用、さらにビジネスモデル、あるいは賑わいにつながるような、そんな取り組みにも拡げてもらえれば良いと思っています。

以上でございます。

<進行>

ありがとうございました。村山先生からコメントを頂けますでしょうか？

<村山座長>

はい。このスマートリージョン・コア実行計画を軸にと今いろんな主体が集まって、非常にいい動きをしていると思っています。今日も話がありましたけれども、必要に応じて更に参加者を増やしていくことや、物事をよりオープンにしていくことなど、知恵を出し合っているものが作り上げていければなと思っています。そういう意味でも、この実行計画の進捗管理も新しい項目を追加したり、場合によっては、やってみてあまりうまくいかないものについては縮小したり、フレキシブルにやっていければいいかなと思っています。引き続きよろしく願いいたします。

<進行>

ありがとうございました。

今後におきましても、スマート化に向けて本協議会の活動を継続してまいります。次回幹事会は2023年3月27日(月)13時30分から15時30分、場所はこちら四日市商工会議所3階大会議室にて実行計画の進捗報告を予定しております。詳細等につきましては決定次第、事務局からご連絡いたします。

以上をもちまして令和4年度第2回幹事会を閉会させていただきます。本日は忌憚のない意見をいただき、また進行にご協力いただきありがとうございました。

—以上—